

の虚空蔵菩薩については上杉鷹山が建設されたということだそうでございます。それで、中里からおけさ堀を登って、そして庄内に向かう葉山を通っていく65キロぐらいの葉山、朝日軍道については、直江兼続がつくったというふうなことでありますので、そうした歴史的文化遺産というふうなところも含めて、これからの山岳観光に生かせないのかなというふうに思ったところでもあります。

その今の葉山山荘のトイレについては、岳人長井の山岳会の皆さんが一生懸命頑張っていたので、今のトイレをつくり上げられたということで、その思いもあるというふうに思いますが、やはり離れているというところで、夜は暗い、手洗いもないというふうなところなどもありますので、その辺もぜひその当事者の方々と相談いただいて、できれば先ほど私が申し上げましたとおり、長井市と白鷹町、それぞれの登り口があるわけで、白鷹山の例のように、お互いに負担し合って建設したというふうな、七百数十万円ぐらいだそうではありますが、そうしたところも含めて進めていただきたいというふうに思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで、暫時休憩いたします。

再開は3時20分といたします。

午後 3時01分 休憩

午後 3時20分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 15番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 本日、最後の質問になります。よろしくお願いいたします。

4年に1度のオリンピックが行われ、日本人の活躍に興奮と感動をいただいた暑い夏が過ぎようとしております。17日間にわたり、28競技306種目とさまざまなスポーツを見ることができました。4年後は、東京で行われます。当長井市からもぜひオリンピック選手が育つことを願っています。

それでは、通告書に従いまして質問をさせていただきます。

第1項目、ホストタウン誘致事業についてお伺いいたします。午前中の内谷議員と重複する点があると思いますが、よろしくお願いいたします。

7月21日の全員協議会において、2020年東京オリンピックに向けてホストタウン誘致事業の説明を受けました。このたびのリオデジャネイロオリンピックでのタンザニアの選手は、陸上競技では、男子マラソン3名、女子マラソン1名、柔道で、男子73キログラム級1名、競泳、男子50メートル自由形1名、女子50メートル自由形1名に出場されておりました。全員協議会の中で、長井市がタンザニアを選んだ理由に、タンザニア出身の長井市在住の方がいらっしゃるからとお聞きいたしました。本来ならば友好都市であるバートゼッキンゲン市のあるドイツも候補と思いますが、ドイツを選ばなかったのはなぜでしょうか。事業を受けた場合の旅費、宿泊費等の経費はどのようになるのでしょうか。総合政策課長にお伺いいたします。

この事業によって今後の国際交流事業、またはインバウンドに生かしていけるのでしょうか。

市長にお伺いいたします。

第2項目、ベビーボックスについてお伺いいたします。3月の定例会でも質問をさせていただきましたが、その後の動きについて改めて質問をさせていただきます。

7月15日付で総務省の地域おこし協力隊ビジネスアワード事業が採択され、全国で20件弱が応募し、6件の採択があり、その中に長井市も入ったわけですが、採択内容について、地域づくり推進課長にお伺いいたします。

ベビーボックスの作成について市長にお伺いいたします。実施時期は29年度からとお聞きしておりますが、今の段階で間に合うのでしょうか。どんなものがボックスの中に入るのでしょうか。価格の設定は幾らなのでしょう。また、生まれてくるお子様たちへのプレゼントの時期はどのように検討されているのでしょうか。今後このベビーボックスを生かし、地域協力隊の任期満了後の定住・定着を支援するためにどのようにお考えでしょうか。市長にお伺いいたします。

また、ベビーボックスを商品化して全国にPRするためには、どのような手だてが必要なのかお考えでしょうか。総合政策課課長にお伺いいたします。

第3項目、やまがた長井観光局の旅行商品についてお伺いいたします。

4月からの花観光も終わり、市内には観光客の姿が見られなくなりました。今後どのような商品を売り出していくのでしょうか。商工観光課長にお伺いいたします。

長井市はこれから紅葉の時期でもあり、川原で食べるいも煮が最高だと思います。当然、市でもいろいろ工夫をされていると思いますが、長井ダムの現場事務所の跡地利用を考えてみてはどうでしょうか。あの場所でしたら水道も引いてあると思いますし、草がぼうぼうにならないうちに活用したらいかがでしょうか。まなび

館に貸し出し用の鍋を置き、まきや材料などは地元の食材を準備するなどして交流人口をふやしてはいかがでしょうか。特に週末などは地元の皆さんとも触れ合う機会をつくることにより、田舎のアピールや山形の食材等の観光のPRにもつながるのではないのでしょうか。

長井ダムではことしも、ながい百秋湖遊覧船百秋湖めぐりを行っております。本年度から地域おこし協力隊員の女性の船頭さんをご案内をする予定とお聞きいたしました。案内を始める時期はいつからでしょうか。女性の船頭さんがいるということで、観光に大きな期待ができるのではないかと思います。その点についてどうでしょうか、市長にお聞きしたいと思います。

以上、3項目の質問をさせていただきました。ご清聴ありがとうございます。簡潔でわかりやすいご答弁よろしくお伺いいたします。(拍手)

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員から、大きく3項目のご提言をいただきまして、私からは5点ほどお答えをさせていただきたいというふうに思います。

まず最初に、ホストタウン誘致事業についてでございます。議員からはタンザニアを選んだ理由はいろいろ聞いたけれども、それよりもやはりドイツとか中国ではないかというようなお話だったというふうに思います。それで、先ほど午前中の内谷議員のご質問にもお答えしたんですが、最初ホストタウンとかいうときに、私が最初に抱いたイメージは、2002年のサッカーのワールドカップ、日本、韓国の大会のときの大分県の旧中津江村だったと思いますが、あそこはカメルーンのキャンプ地として小さい村がかなり頑張ったんですね。これ、アフリカのカメルーンっていう国は人口はたしか2,000万人ぐらいしかいない国なんですけども、そこで当

時のワールドカップのときに大変な話題になりました、大分メディアでも取り上げられてました。それで、驚くことに、今でもおつき合いがあるってことなんですね。ですから、こういうつき合い方っていうのが重要だなというふうに思ったところでした。

ドイツについてはバートゼッキンゲン市ともう30年来のつき合いがあるわけですけども、そもそものきっかけはスキーでございまして、それ以外の残念ながら交流の中で、スポーツの交流っていうのは今のところないんですね。さすがにこれからつくろうと思うのもなかなか難しいのかなと。ただ、私も勉強不足で、ドイツっていうのは卓球すごく強いんですよ。私、中国ぐらいしか余りイメージなかったんですけども、ドイツすごい強いと。ですから、これからとしては、私どもも卓球は非常に北中、南中、合わせて全国でも中体連などでは有数の上位校でありますし、選手もプロの選手なども排出しているということから、今後ドイツとのつき合いの中で卓球ということも考えていかなきゃいけないと。ただしこれからホストタウンとして名を上げるときに、全くつき合いのないのにお願ひしますっていうのはかなり難しいだろうと。

あとはドイツぐらいの大きい国になりますと、選手団も何百人なわけですね。多分卓球だけで選手と控えの選手も含めれば、もう30名、40名、男女含めればもっといるでしょうし、コーチとかいろんなトレーナーとか含めれば、もうそれこそ200人とか300人ぐらいの多分規模だろうなと。それを私ども長井で受け入れられるかと考えたときに、やっぱり受け入れる施設は世界基準なんですよ、国際基準。したがって、私どもで例えば国際基準として何があるかっていったら、やっぱりマラソンの陸上の施設だけなんです。マラソンの公認コース、これは長井マラソンを蒲生光男議員を初め長井の人たちが苦勞して、もう30年目ですね、ことしね。そういっ

たことをやってきたから、公認コースが山形県で唯一あるわけですね。それから、第三種ではありますけれども、しっかりとした世界記録までとれるような陸上競技場を整備してますんで、やっぱり陸上中心のものしか受け入れられないと。なおかつたくさん選手団、あるいはコーチ陣とか必要なところは受け入れられないと。

要は私どもの能力から考えると、最初からドイツを狙っていくっていうのはなかなか難しいだろうと。中国はましてや隣の国ですから、もっと選手団を送ってきますから、ちょっと難しいだろうなということから、まずは時間を置いてそれらを研究するとして、タンザニアでしたら、いろいろ調べてみたら10人ぐらいだと、選手がですね。それで、非常に失礼ですけども、決して裕福な国じゃないわけですから、私どもとしてもいろんな支援をすれば、もしかしたら長井を選んでもらえる可能性が高いんじゃないかと。

あと、幸いにも長井出身者のジャイカの職員がタンザニアのジャイカのほうの事務局にいらっしゃるということやら、さまざまなタンザニアの友好協会が唯一あるのは山形県だけだということなどもあってこれを選んだところでございます。したがって、今後何度も繰り返になりますけれども、第三次募集で手を挙げるんですけども、三次募集で山形県内どこが手を挙げるかわかりませんけれども、一次と二次で山形と上山と鶴岡しか手を挙げてないわけですよ、35の市町村の中で。これはきっとほかの市町村も今後どんどん挙げていきますんで、まずは私どもとしては、これ以外のドイツを含めたところについては今後の取り組みとして、恐らく7次、8次、10次ぐらいまで募集はあるだろうと思ってますんで、それまでにいろいろ準備を進めてまいりたいというふうに思っているところでございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

続いて、国際交流またはインバウンドに生かせるのかということですが、これは生かさなきゃいけないってことなんですね。生かせるのかではないです。例えばホストタウンになったから自動的にお客さんが来るなんてことはあり得ないわけですし、国際交流も、これは私どもの議会も含めて、市民の皆様の意向もあるわけですよ。したがって、これを生かすべきじゃないかという提案なんです。これはぜひ議会からもご理解いただいて、タンザニアに限らず、この際に日本はどんどん人口が減っていくわけではございますけれども、若い人たちが長井っていう国もこれから20年30年にわたって国際的にも知名度も上がるような活動することによって、子供たちの誇りにもなりますし、夢や希望、オリンピックに出るといふことや、あるいは海外の人たちと仕事をする、交流するといふことの夢にもつながると思っておりますので、これは生かしていかなきゃいけないと思っております。

あと、オリンピックっていうのはスポーツの祭典のみというふうにも日本人は思われているようですが、いろいろ聞きますと、実は文化プログラムも非常に重要だと。こちらがむしろ一般の市民の方がかかわれる最大の部分だというふうに言われているようです。私も最近知ったんですけど、6月の全国市長会でも東京オリパラの準備委員会のかかわってる委員の大学の教授が講演をなさって、ロンドンオリンピックの文化プログラムの講演があったんですよ。これはすごかったです。ああ、こういうことで国際交流とか、あるいは外国の関心を持った人たちが、そういった文化プログラムをやっている地方の小さい村でも、町でも来るんだということを知りまして、したがって、単なる目につくところだけじゃなくて、やっぱり我々日本の持つ文化とか伝統、芸能、そういったものを世界に発信する、紹介するいい機会だと思

っています。

例えばドイツのバートゼッキンゲンについては、時間もあるようなので少しお話しさせていただきますが、私は行ってないんですが、15年前ぐらいに黒獅子を1回連れていったことがあるんだそうなんですが、非常にドイツの人たちは感動して、関心を持って、ファンになったっていう方が結構いらっしゃるようなんですね。それで、この間ドイツから訪問団が、何年前でした、3年前か4年前にいらしたときに、上山に住んでいる、永住しているドイツの方が、黒獅子に私は感動して、それから長井っていうのはいつも注目しているんだということで、黒獅子まつりっていうのは非常に関心を持っておられましたので、そういったことなども我々独自の考え方で、この単なるホストタウンだけでなく、そういうオリンピックのさまざまなプログラムを活用して地域を活性化するということが大切だと思っております。

ただ、黙っていればそういうことをすれば観光の外国人のお客さんが来るっていう、そんな甘いものではないと思っておりますので、それぞれの仕組みづくりはぜひ鈴木議員を初め、議員の皆様や市民の皆様からいろいろご提言、お力添えをいただいて頑張っていきたいというふうに思います。

続きまして、大きな質問項目の2点目、ベビーボックスについてでございますけれども、私のほうからはベビーボックスの実施時期、協力隊の任期後の定住についてどう考えているのかというご質問でございます。

これはベビーボックスにつきましては議員もご承知のとおり、私どもがふるさと財団、総務省の外郭団体でございますけれども、こちらの支援を2年間いただきまして、約1,000万円ずつ大変貴重な財源を頂戴しまして、今後知名度、長井はまだまだ全国的にはありませんから、どういふふうにして長井を売り出して、しかも外

から長井に移住いただく、定住いただくかということから、シティプロモーション事業っていうのを取り組んでまいりました。それで、その中で、いろんな方がコーディネーターでご協力いただいて、本田勝之助さん、社長ですね、それから例えば東京の長井の事務所の櫻井さんとかですね、いろんな方々が長井ってすごくいいところだよと、市民皆さんが気づいてないところがたくさんあるんだということから、いろんなご紹介をさせていただきながら、市民の皆さんと意見交換をして、最終的に水を生かした町にしようというふうなことでの大体の大枠のコンセプトが決まりました。

ただ、その水を生かすにもいろんなやり方があるということで、決定したのが天然水100%の子育てライフながいという概念、コンセプトでございました。これに基づいて、じゃあさまざまな事業展開をしよう、その一つの目玉がこのベビーボックスだということです。これはフィンランドのほうでご承知のとおり、もう1920年、30年ごろから、当時はヨーロッパのほうでも幼児のうちに子供が亡くなるっていうのが、非常にその率が高かったと。それをやっぱり少しでも多くの赤ちゃんがきちんと成長するようにということで、子育て、赤ちゃんから幼児に至る最初の1年、2年が非常に重要ですから、その間に必要なものをベビーボックスという箱の中に詰めて、お祝いとしてプレゼントしたと。それが今も続いているわけですけども、それを私どもの地域おこし協力隊の佐藤亜紀隊員からそういうような提言をいただいて、じゃあそれを目玉の一つにしようっていうことで始まったものでございます。

実施時期については来年の4月から始めたいと、29年度から。したがって、シティプロモーションは26年、27年の2カ年間でやってまいりまして、28年度はそのベビーボックスの中身を含めていろんなものを準備する期間で、29

年からそれを市民の、いつの時期に配るかですが、やっぱり出産されたときがいいだろうというふうに思っておりますが、そのときに全員無償でお配りすると、市民には。

ただ、そんな中で、ベビーボックスに入れるものについてはこの事業の発案である、先ほど申し上げました地域おこし協力隊の佐藤亜紀さんが中心となって立ち上げましたNPO法人、これは申請団体、まだ認可いただいてませんが、a L k uというNPOと、あと市の関係部署が協議を重ねて現在いるところでございます。具体的な内容としましては、大きく分けて、物と情報がございます。物としては箱や中身を市内の企業や伝統工芸の職人とともにつくっていく長井ならではのオリジナルのもの、そして妊婦さんなどの要望が多いオーガニックのタオルや肌着などを検討しております。また、地域の子育て情報も入れまして、祖父母も含めて家族全員が幸せに子育てできる環境づくりをサポートしてまいりたいと思っております。

予算額については内容を検討している段階でございますが、赤ちゃん1人に対してベビーボックス1つを贈るんですが、販売するとなるとです、大体原価としてはどのぐらいかかるかですが、2万円から3万円ぐらいじゃないかなと。これは私どもそれを市で直接つくるというよりもNPO団体のa L k uでつくってもらって、それを私どもで買う方がいいのかなと。なおかつ佐藤亜紀隊員は、これはぜひネットを通じて全ての注文、買いたいっていう方には有償で譲ろうという考えですし、私どもとしても例えばふるさと納税の返礼品にもこれ使えるんじゃないかというふうに考えているところでございます。まだ検討段階のものが多いんですが、平成29年4月からお送りできるよう準備を進めてまいりたいというふうに思います。

また、地域おこし協力隊の定住に向けての支援でございますけれども、総務省では地域おこ

し協力隊推進要綱を制定しまして、任期終了の日から起算して1年前及び1年後までの期間に活動している同一市町村において起業、自分で何か商売を始める場合、その経費を1単位当たり100万円上限の特別交付税措置をとるということになっております。これを受けまして長井市では、長井市地域おこし協力隊定住起業支援補助金の交付要綱を制定いたしまして、隊員に対して補助金を交付できるよう準備を整えております。また、ことしで3年目を迎える隊員が現在7名市内には、長井市には地域おこし協力隊員の方がいらっしゃいますが、そのうち3名が3年度目、あるいは丸3年に近くなりますので、その方たちが実際に起業されるとか、そういうことに加えて、長井市独自の支援策も考えていく必要もあるのかなというふうに現段階で考えているところでございます。

それでは、最後の質問でございますが、やまがた長井観光局についてでございますけれども、長井ダムの工事現場事務所跡地利用について、また百秋湖の長井ダムの百秋湖遊覧船、百秋湖めぐりについての考え方、これからの進め方についてお話ししたいというふうに思います。

鈴木議員からもございましたように、野川まなび館の西側、旧長井ダム工事事務所の監督員詰所及び共同企業体の現場事務所があった場所については、長井市が地元の共有地組合さんから購入して所有している土地でございます。約2.6ヘクタール全てでございます。現在その一部を市内建設業者の現場事務所として貸し出しているほかは未使用の空き地になっております。これはダムの結局あそこに現場事務所があったり宿泊施設もあったんですね。寺泉にもあったんですが、それを何とか私どもとしては無償でもらって使いたいという考えがあったんですが、ちょうど姉歯の耐震偽造の問題がありまして、いわゆるああいふ仮設住宅についてはもう一回全て基礎からつくり直さなきゃいけないと、

建築確認も全て取り直さなきゃいけないということで、残念ながらもったいなかったんですが、断念せざるを得なかったと。あわせて、そこには議員ご指摘のとおり、水道とか下水とか電気とか全部ありますので、まなび館を私ども、国のほうから借りることは決まっておりましたけれども、管理運営するところがなかなか決まっておりました。

それで、結果としてはNPOのリバーツーリズムネットワークさんで借りていただくことになったんですが、あそこの跡地のところに例えばオートキャンプ場とか、そういうふうにしたかったんですが、ちょっとやっぱり地元と話したときに、ちょっと不安だと。誰が来て利用するかもわからないと。変な人たちのたまり場になってしまっても困るということもあって、オートキャンプ場というのはいま諦めまして、あと何か地元で使えるんだったら何か使ってもらえないかということで、現在ゲートボール場とかで時々使っていただいているという現状でございます。

それで、今後は例えばまなび館と、それから長井ダムの百秋湖と、そしてあそこにすぐそばに道照寺平のスキー場と、加えてさまざま、あそこの締切堤防とか、あとはラウンドアバウトとか、あの辺こういういろんな新たな取り組みがございますが、今後どういうふうにしてあそこの空き地を生かすかということについては、やっぱり私どもと、あと地元の平山の地区の皆様、あるいはNPOの団体等々、関係の皆様と相談しながら、どういう使い方をするかということをいよいよ新たな取り組みができるんじゃないかと。今まではそういったことはちょっと無理だと私は思っておりました。やまがた長井観光局もスタートいたしましたし、ようやく観光客を連れてくれる、まず第1段階ですね、その組織ができましたので、今まではとてもとてもそんなことはもう不可能だと、やっても失敗

するのは見えてましたのでやってこなかったという状況でございます。ぜひ議員のほうからも今回の例えばいも煮会場とか、そういったことも含めて扱い方、ご提言、なお一層ご指導いただければと思います。

最後になりますけども、ながい百秋湖の遊覧についてですが、これは長井の新たな観光としては非常に有望なんですけど、残念ながら今の状況ですとNPOさんでやってる部分には、なかなか常時いろんな人が自由に、自由にじゃないですね、お金を出せば百秋湖遊覧できるような状況をつくるのはちょっと難しいというふうに思ってます。

まず一つは、大きいボートがないと。手こぎのボートですと、やっぱりマンツーマンとか、せいぜい1グループ当たり四、五人のグループには対応できるかもしれませんが、とても採算の合うような事業はできません。したがって、遊覧船が50人乗りぐらいの、ちょっと屋根つきで、雨でも大丈夫だと、そういうのが2そうないと多分難しいだろうと。例えば今、やまがた長井観光局で、おかげさまで当初予算で200万円認めていただいた、いわゆるバスの補助金、これは全部埋まりました。やっぱりPR不足だったものですから、ようやく今になって、もうなくなってから予約が殺到して、ざっと70件、80件ぐらい。ですから、旅行会社からの予約で何とかできないかということなんですけど、大体1団体30人から40人ぐらいで組めますので、例えば70団体で330人としますと、それだけでやっぱり200人、300人ですよ。そういう団体客がいらしたときに、百秋湖の遊覧といっても団体客対応できないわけですよ。ですから、そういうところに対応するには50人乗りぐらいのそういう遊覧船、最上川船下りみたいな形で、なおかつ1時間かかりますんで、往復で、遊覧でね。

そうすると、2そうぐらいないと団体客対応

できない。じゃあこれをNPOさんでできるかということ、とても無理だと思いますし、許可がおりないですね。相当財力があったり、しっかりした団体じゃないと、油の問題があるもんですから、どうしてもガソリン、ディーゼルエンジンで回さざるを得ないと。行く行くはリチウムイオン電池のそういう船なども開発してただけるものというふうに思ってますけども、したがって、そういったところを今後どうするかという課題を解決してやっていきたいと。それまではとりあえず今のような少人数のグループの対応でやっていかざるを得ないと。ただし地域おこし協力隊の丸山さんっていう女性の隊員が、もう船舶の免許を持っているということで長井にわざわざお越しいただいたわけですから、来年度あたりそれができるように、12月補正とか、あるいは当初予算あたりでぜひ検討させてもらいたいと思っておりますので、その際にはいろいろご指導賜りたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘総合政策課長。

○**竹田利弘総合政策課長** 私からは、大きく2つに分けてご回答させていただきます。

まず、第1番目に、ホストタウン誘致事業の(2)事業が決定した場合の経費はどうかということですが、これにつきましては、平成27年9月30日で国の内閣官房で示しましたホストタウン構想推進のための地方財政措置の考え方について、ホストタウンとして登録された団体に対し、経費への国の財政措置が大きく分類し、2つ明示されております。

まず、第1番目に、1つなんですけども、市民等と大会等に参加するために来日する選手や大使館職員等、大会参加国、地域の関係者、日本人オリンピックまたはパラリンピアンとの交流または当該交流に伴い行われる取り組みで、スポーツの振興、教育、文化の向上及び共生社会の実現のための経費について、対象額の2分

の1の額が特別交付税で措置されるというものでございます。いわゆるこれはソフト経費と言われるものでございます。具体的には、大会関係者との交流に要する経費、競技イベントや講演会の開催経費、相手国の応援イベントの開催経費、交流相手国の事前合宿の誘致及び実施に関する経費が対象となります。例えばでございますが、タンザニアの選手を長井マラソン等の大会に呼んできた場合、それがいわゆるオリンピックへの誘致に関係するものであれば、その2分の1が特別交付税で算入されると。あと、日本人のオリンピック選手を講演会に呼んできた場合は、その2分の1が特別交付税で措置されるというふうなものが例示をされております。

2つ目でございますが、施設改修でございます。東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿に活用する予定の既存のスポーツ施設を各競技の国際競技連盟基準に適合させるために必要不可欠な改修事業に係る経費について、地域活性化事業債の対象とするものでございます。この地域活性化事業債は充当率が90%で、交付税措置率が30%でございますので、27%分について後年度のいわゆる起債の償還に合わせて国の支援が受けられるというものでございますが、ここでちょっと問題になるのが2つございまして、施設の新設は対象でございませぬ。あくまでも改修でございます。あと、国際競技連盟基準に適合するというので、かなり高度な施設になってくるとお思いますので、そこが長井市の施設で何が改修して適合するのかというのは、本当に数少ない。まだ今、私どもでもどの競技ということを目指す、陸上以外は余り想定していないとか、考えてるところが非常にまだレベルに達してないもんですから、ほかの施設がどこが対象になるかはまだ検討中でございますが、余りないと思われませぬ。

続きまして、ベビーボックスの(3)全国にPRする手だてはどうしていくのかでございます

すが、ベビーボックス事業は昨年9月に策定した総合戦略において、基本目標に掲げた若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえると、長井市への新しい人の流れをつくるに沿った事業でございます。総合戦略では、教育、子育てを柱とし、子供や子育て世代にとって魅力ある町のPRも重要であることから、市としてもこの事業を推進していきたいと考えております。

現在、内容について、この事業を発案した地域おこし協力隊、佐藤亜紀さんが中心となって立ち上げたNPO法人新生団体のa L k uと市の関係部署が協議を重ねております。NPO法人新生団体のa L k uは、この長井のベビーボックスをきっかけに、行く行くは先ほど市長も申し上げましたが、日本全国にベビーボックスを広め、販売したいとの趣旨で設立されたものでございまして、地域おこし協力隊の、いわゆる起業、起こす業にも資することから、市でも積極的に支援していきたいと考えております。

全国にPRするための手だてですが、まだ完成してない状況ですので、今のところ具体的な案はなく、検討をしていきたいと思っております。

なお、現在ベビーボックスのデザイン等に係る経費について、市のふるさと納税制度に沿ったガバメントクラウドファンディングを行っております。このような手法も全国にPRする方法と思っております。

○渋谷佐輔議長 松木 満地域づくり推進課長。

○松木 満地域づくり推進課長 それでは、私のほうからは、2番目のベビーボックスについてというところの1番目のご質問の地域おこし協力隊のビジネスアワード事業についてということでお答えをさせていただきたいと思っております。

この事業につきましては、総務省が自治体に委託をするというふうな内容でございまして、地域課題の解決や地域活性化に向けて自治体の支援のもと起業に取り組みます地域おこし協力

隊員、または隊員の経験者が支援対象となっております。今後の協力隊の自立の手本となる先進的なモデル事業をされるもので、今回初めて募集した事業になります。協力隊というのは基本的にはそこに3年後は定住をするということも一つの目的というようになっておりますので、その部分で支援をしていくというふうな制度の一つということをご理解いただきたいと思います。

このたびの採択は、20件弱全国であった中で6件採択されたということで、長井市以外では京都府、徳島県、長崎県、大分県、鹿児島県というようなことで、東日本では長井市だけというふうなことでございますので、全国的にも注目はこれからますます強くなっていくのかなというふうに思っております。支援内容につきましては、この応募者の中から審査会で選ばれた事業に最大300万円の財政的支援が受けられるというふうなものでございます。今回、長井市から申請させていただいた内容は、昨年4月から地域おこし協力隊ということで活動をいただいている佐藤亜紀隊員が子育て応援と地場産業の振興を図るという目的で始めたこのベビーボックスプロジェクト事業ということで、市のほうで協力隊員と一緒にやっていくという形の申請書の書き方でございましたが、そのような形で事業を実施していくというふうなものでございました。

この内容としては、協力隊員が新規ビジネスとして起業して自立をするための法人の設立と、市内業者等の協力のもと、そのベビーボックスに入れる子育てグッズを今、話をしながら進めておりますが、そのような地場産のものを使っての子育ての支援というような部分、そしてそれを販売していくための営業のさまざまな準備、あとはさらに子育てしやすい町としての長井市のPRという部分も含めながら、今、事業検討をしているところでございまして、そのような

内容で申請をしたところ採択というようなことでもございました。この定例会にも補正予算として提案させていただいておりますが、このうちの、このうちというか、この事業に対して125万6,000円という金額が総務省のほうで採択されたというようなことでもございます。

以上がビジネスアワード事業についての内容でもございました。よろしくお願いたします。

○**渋谷佐輔議長** 手塚慶一商工観光課長。

○**手塚慶一商工観光課長** 私のほうからは、問3のやまがた長井観光局についての1のこれからのような観光商品を売り出していくのかについてお答えしたいと思います。

初めに、やまがた長井観光局の設立、そして現在の課題と解決策についてお話しさせていただきたいと思います。長井市観光振興計画の中では、住んでよし、訪れてよしと思われる地域を目指して、通年型の滞在交流型観光を整備し、交流人口を増加させ、地域経済を活性化することを目的として策定され、その実現策の一つとして観光まちづくりプラットフォームの構築を上げております。そして、みんなで作る幸せに暮らせるまち・長井を将来像とした長井市第五次総合計画の中におきましては、重点戦略の一つとして、にぎわいと働く場づくり戦略を掲げております。さらには長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、長井市への新しい人の流れをつくるという基本目標のもとに観光地域づくりプラットフォーム、日本版DMOの構築をリーディングプロジェクトに位置づけ、わかりやすい、行ってみたくなる、また来たくなる長井市の実現を図ることといたしました。

そして4月にオープンしましたやまがた長井観光局は、オール長井で取り組むことを確認し、長井市民が誇りを持てる観光地域づくりの実現のため、地域の多様な事業者や住民と一体となり、豊かな地域資源を活用した滞在交流型観光を企画運営し、広く地域の魅力を発信して、市

民が一体となって観光客を迎え入れる仕組みづくりを行い、滞在人口、交流人口を増加させ、活力ある地域経済の発展に寄与する目的で事業を行っているところでございます。

その具体的な戦略としましては、理事会では次の3つの戦略を掲げております。1つは、お客様をふやす。長井においでいただくということで、具体的な方法としまして、観光ポータルサイトなどを活用した情報発信による認知度やイメージアップ、チラシの作成などがございます。

2つ目には、お客様を市内、まちなかへ誘導するというので、具体的な方法としましては、誘導する旅行商品の造成や誘導するコンテンツの作成などがございます。

3つ目としましては、お客様に心地よくお金を使っていただくということで、商店街や観光施設などでの受け入れ体制、インバウンド客の受け入れ体制の整備等の3本柱で展開していくことといたしました。

しかしながら、設立初年度として課題も多く、土日の勤務もありまして、現在の観光局の人員体制では事業計画の実施のためには人員不足であること、また商品の販売においてはノウハウも含めて営業力不足、そして資金的なこともございますけれども、PR不足が上げられるところでございます。人的な支援としましては、ことし市から1名派遣し、加えて地域おこし協力隊の協力、そして営業指導として観光事業に長く貢献された方を顧問に迎えて営業不足を補っているところでございます。

また、昨年度の地方創生先行型交付金事業では、市民記者育成、情報発信、Wi-Fi整備を行うとともに、今度申請する推進交付金においては、地域の情報を一元化し、全国に向けて情報発信とPR強化、そして専門家の招聘など、市民と事業者のオール長井で商品企画開発を実施できる人材育成を考えているところでござい

ます。加えて29年4月にオープンする長井市観光交流センター川のみなと長井との連携によって、まちなかへの人の流れを生み出し、まち歩きや体験などの交流をつくってまいります。

また、さきにも述べましたが、30年度を目標に、有利な支援制度である観光DMOに登録し、組織的に努力して継続的な運用ができるよう取り組んでいきたいというふうに考えております。観光局については4月からの設立であって、立ち上がりの3年間ぐらいは軌道に乗るまでの期間として、行政での支援が必要と考えております。

最後に、9月に紹介している商品といたしましては、ぼくらの文学、お寺に泊まろう、これは西根地区の洞松寺の本堂に泊まってボードゲームなどで楽しむ企画でございまして、まさに市民の方の手づくり商品でございます。このほかに長井舟運ごちそう御膳やけん玉のふるさと長井、けん玉ペインティング体験とけん玉工房のご案内など10商品が準備されているところでございます。

また、11月には読売旅行とのタイアップ事業として、長井駅から中央十字路、そして本町周辺にお客様を集客する町歩き、食べ歩きの商品を売り出す予定で、県内外から500名を目標としております。これからもお客様の声をお聞きしながら、地道に来年度の商品づくりに生かしていく考えでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ご丁寧な答弁、大変ありがとうございました。

ホストタウンにつきましては、内谷議員と本当に重複いたしておりましたことを改めて説明いただきまして、大変ありがとうございました。私はいろいろ国際的な問題があるということとはちょっと考えておらなかったもので、今回のリオのオリンピックに柔道と競泳のほうに出ているので、もしかしてこちらの選手も来れ

ばプールの補修、修理とかもうまくいくのではないかなと思っておりましたが、課長のお話を聞いて、そううまくいかないのだなということ改めてここで思ったところでした。

これからいろいろあると思いますが、パラリンピックなんかにおいてももっといい案があるんじゃないかなと思いますので、ぜひ情報を早くつかんでいただきまして、長井のほうに交流していただきたいと思いますが、いかがでしょうか、市長にお伺いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員からございましたように、パラリンピックのほうもまたオリンピックとは違った意味で盛り上がりがすごいですよ、今ね、リオのほうで。ですから、そういう何らかの形で障害を持った方が頑張っておられる姿というのはやっぱり私どももぜひ感動的に、そしていろんな応援をしたいというふうに思ってます。

それで、午前中もちょっとお話ししたんですが、東京オリンピック・パラリンピックの実行委員会の事務局のほうに1回お邪魔しなきゃいけないなと思って、遠藤大臣がご就任中にちょっとそちらのほうの足がかりというふうに思っていたところですが、ちょっとこれは私どものまだ情報不足、勉強不足もあるんでしょうけども、私の印象としてはこれからだというふうに思いました。例えば内閣府の中にそれがあるんですけども、内閣府っていうのは国のさまざまな課題、新たな取り組みというのは全てばんばん立ち上がるんですね。それで、東京オリンピック・パラリンピックについては、多分リオが終わって、今まさに具体的な組織が充実、拡大していくんだらうというふうに思ってます、ですから、これから情報がまだ余り私ども、市町村持ってないんですね。多分山形県も、私どもよりはもちろん持ってるでしょうけど、まだまだ情報がきちっとないと思っておりますので、

今後私どもとしてもいろんな取り組みに応えるように頑張っていきたいと思います。

なお、議員からありました柔道と、特に水泳については、水泳は50メートルなんだそうですよ。私ども50メートルのプールがないので、いや、幸町のあのプール、もったいなかったのかなど。かといつてもあれ、底からもう湧き水がありますんで、あれを全面改修したら相当お金かかりますし、そんなことで、ちょっと水泳は難しいのかなというふうに思ってますが、それ以外の競技などについても議員ご指摘のとおり、これから私ども情報収集しながら、少しでもオリンピックあるいはパラリンピックの事前含宿も含めて、受け入れるように準備、情報収集に努めたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ホストタウン事業については、ありがとうございます。

続きまして、ベビーボックスについてお伺いしたいんですが、ベビーボックスを県外とかに売るとおっしゃっていましたが、品物は長井市産のものとお聞きして、あともう一つ、例えば健診票とか、いろんなソフト面を何か入れるとおっしゃいましたが、その例えば宮城県のどこどこからもし注文が来たっていう場合は、その部分についてはどうするんでしょうかね。例えばその土地に出向いてこういう健診がありますよとかを調べてくるのか、例えばそういったものを入れるとするときの視察に行ったときの旅費などについては、市のほうではどういうふうに対応するんでしょうか、市長にお伺いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 詳細はこれからだと思いますが、まずは私ども、市民の方の赤ちゃんの出産には市の情報と、ソフトとハード、物ですね、ハードというよりも、それに備えたもので対応したいと。それで、実際外に販売される場合は私ど

も市ではなくて、そのNPO法人 a L k u のほうで販売するわけですが、その際にはソフトってのはなかなか難しいというふうに思いますので、一般的な制度、例えば国の制度やら、そういったところのソフトはもしかしたらつけることができるかもしれませんが、その注文があったそれぞれの市町村ごとの情報っていうのは、これは基本的に無理だと思いますので、多分物だけがメインになるのではないかと思います。それは今の段階では私どもが販売するわけではないので、NPOさんのほうでいろいろ検討されるものというふうに思いますが、ぜひ鈴木富美子議員から何かいろいろなご助言などあったら、ぜひそういったところをご指導いただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。ぜひNPO法人で頑張っていただきたいし、定住していただきたいなと思っておりますので、その点は私たちもできる限り応援したいと思っております。

続きまして、第3項目の観光についてですが、私きょうわざわざこのバッジをつけてきたのですが、前に雇用創造協議会でおらんだの長井検定というのがありましたけども、あとき大分資料をつくったわけで、検定を受けたのは50人ぐらいでしたが、その後どうなったのか。協議会がなくなったということですが、なぜこれを出したかという、今後の観光にこれを生かしたほうがいいのではないかと考えておりますので、おらんだ検定を長井市民の方がもし受けさせていただければ、皆さんが黒獅子の里案内人だけじゃなくて、ちょっと道ですれ違った方にも長井はこういうところ、こういう歴史があるんだよってお話できるようになればいいかなと思っておりますが、その点について、商工観光課長はいかがに、どのように考えておられるでしょうか。

あわせて、先ほど市民記者のことが出ましたけども、その市民記者は今、有効に、どのように生かされているのか、商工観光課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 手塚慶一商工観光課長。

○**手塚慶一商工観光課長** 議員のおっしゃるおらんだの長井検定については、ぜひ今後市民の方に興味を持って、我が町をぜひ知っていただくためにも内容的に大変いいものというふうに思っておりますので、ガイドの方などとも相談しながら、観光振興、中でも着地型ツアーの商品の一環として、また長井ファンのリピーターとしてもふやすためにも検討していきたいというふうに考えております。

市民記者につきましては、投稿等もいただいておりますし、今後有効に皆さんに働いていただけるよう、さらに働きかけをしてまいりたいと思っております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長のほうから、さっき百秋湖の船の件、ありましたけども、ぜひ民間の方に手を挙げてもらうっていう方法はないのでしょうか。その点についてお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 例えば長井の会社経営されてる方で、ぜひやりたいという方などもいらっしゃいますが、なかなか業としてやるには人の関係やらノウハウなどもございまして、相当やっばりそういう技術習得している人などを抱えないと難しいだろうと思っております。それで、考え方として、私は、じゃあ市でどういうふうにかかわっていくかって考えた場合に、市でそれを許可をとることはできませんので、やっぱり財団法人の置賜地域地場産業振興センターあたりさんでそういう認可を取って、そしてそこで取得をしてNPO法人に委託するみたいな形をとるしかないんじゃないかと。ただ、それ以外にも

民間の会社でされる意欲のある方たちがいらっ  
しゃるとしたら、何らかの形でどうすればとれ  
るか、それは現に最上のほうではやってるわけ  
ですから、いろいろ検討して勉強しながら進め  
ていきたいと考えています。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 大変ありがとうございました。  
これで質問を終わりたいと思います。

## 散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたし  
ます。

再開は、明日午前10時といたします。ご協力  
ありがとうございました。

午後 4時20分 散会